

学校 教育 目標	『学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子』 ○主体的に学ぶ楽しさを味わいながら、考えを伝え合える力を育てます。(知) ○周囲と関わり合いながら自他の良さを実感し、それを大切にできる態度を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健康な生活を送る力を育てます。(体) ○学校からまちへと視野を広げ、まちへの愛着を深めながら社会性を発揮できる力を育てます。(公) ○人との関わりを通して自己有用感を高め、皆と幸せに生き抜こうとする力を育てます。(開)				
	創立 71 周年	学校長 内田 宏平	副校長 次田 るみ子	2 学期制	一般学級：19 個別支援学級：6
学校 概要	児童生徒数： 566 人		主な関係校： 末吉中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	末吉中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<言語能力> <自分づくりに関する力>	末吉中学校 末吉小学校 上末吉小学校 下末吉小学校 駒岡小学校	学校・家庭・地域の中で育つ 夢と希望に向かって努力できる子ども ○児童・生徒指導の情報の共有化のための定期的な情報交換 ○「末吉中学校区スタンダード」の運用・検討 ○児童・生徒及び教職員の交流活動並びに地域との交流の活性化 ○義務教育9年間の学びの連続性を軸とした授業参観・授業公開(小中合同授業研究会、人権授業研究会)

中期 取組 目標	<p>○考えを伝え合う楽しさが味わえる対話的な学び・言語活動を充実させながら、言語能力を高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年目は、これまで体育科で培った「伝え合う」力を国語科に応用しながら、対話的な授業づくりを推進します。 ・二年目は、自分の考えをもつことの価値とそれを発信することの気持ちよさに気付ける力を育てます。 ・三年目は、言語活動の充実を通して、一人ひとりが主体的に言語能力を伸ばそうとする態度をもてるようにします。 <p>○実社会に準じた学校環境の中で、他者との関わりを通して自己有用感を高めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年間を通して、友達の役に立った、他者に喜んでもらった、周囲に認められた等の経験を積み重ねられるような意図的な指導を行います。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①本時めあての確認や振り返りの行い方等、授業のベースとなる部分を学校全体でしっかりと共有し、子どもが主体的に学習できる環境を整える。②自分の考えを伝え合える場面を意図的・計画的に設定し、授業の中で対話的な学びの経験を積み重ねる。
担当	研究研修部・重点推進委員会	
徳	人権教育	①人権会議や人権週間の取組みを生かし、互いの人権を尊重するとともに、自分自身の価値についてもしっかりと認識できるようにする。②フレンズ活動等による異学年交流や児童会組織を生かした活動を通して、互いを寛容的に認め合ったり、周囲の役に立つ行動をとったりする経験を重ね、それをしっかりと評価していく。
担当	特色部	
体	健康教育	①家庭と連携しながら、基本的な生活習慣を身に付けようとする意識を高めるとともに、学校保健委員会では本校児童に実態にあったテーマを設定して全校で取り組む。②体力アップ週間を設定し、運動委員会を中心として子どもたちが主体的に体力向上を目指すようにする。
担当	学校運営部・体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①地域の材や外部人材を学習に生かす機会を積極的につくる。それら本物体験を通して、一人ひとりが思いや考えをもって表現したり、自己有用感を高めたりすることができるようにする。②事前指導や事後指導を丁寧に行うことによって、子ども自身が自らの変容や成長を実感できるようにする。
担当	研究研修部	
いじめへの対応		①教職員がチームとして子どもの様子を多面的に見取り、子どもの変容を見逃さない意識を浸透させる。②児童指導委員会や主任会、職員会議で児童の様子について丁寧に情報共有する。毎月いじめ防止対策委員会をもつ。③人権教育、情報教育、自分づくり教育等あらゆる機会を活用して子ども同士が認め合えるようにする。
担当	児童指導委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①上末塾(メンターチーム)を校内三部会のうちのの一つに位置付け、チーム内の資質能力向上を目指すだけでなく、職場全体の力となるような活動を行っていく。主体的に動くやりがいを経験の少ない教職員が実感できるようにする。②グループウェアを活用し、会議での情報共有効率化をねらう中で情報伝達力を上げていく。
担当	主任会・上末塾	
特別支援教育		①担任の「誰一人取り残さない」という意識が子どもの心のバリアフリーにつながるということを認識する。②一般学級と個別支援学級間で、週案や学年だより等の情報をしっかりと共有し、子どもに不利益が生じないようにする。③スキルアップタイム(2~4年)、少人数教室(5・6年)を計画的に導入し、学習支援を行う。
担当	児童指導委員会・特支Co.	
児童生徒指導		①子どもたちが安心して過ごせるよう、全教職員が学校スタンダードを共有するとともに、社会情勢に合わせて適宜見直し改善していく。②職員会議や主任会時に、児童理解の内容を定例化する。③授業分担、担任交換等を意図的・計画的に行い、学級内の風通しをよくするとともに、学年担任としての意識向上をねらう。
担当	児童指導委員会	
学校の特徴		①フレンズ活動や児童会活動を充実させ、児童間でリーダーシップやフォロワーシップを発揮できるようにし、「相手意識」の向上をねらう。②自己決定する機会を設けることで、活動に主体的に取り組めるようにする。③学校文化をつくる楽しさを児童会組織の中で味わえるようにする。
担当	特色部	
情報教育		①フレンズ活動や児童会活動等、既存の教育活動と関連付けて情報モラル教育を行うことで、日常的に情報モラルに対する意識を高めていく。②情報端末を授業の中でどのように活用していくか、有効な実践を蓄積させていく。③学習支援につながる活用法を見いだせるようにする。
担当	情報教育部・研究研修部	